

2学期 さあ、これからは5年生・8年生の出番です。

あっという間の35日間の夏休みも終わりました。今年の夏休みも第7波のコロナの猛威や熱中症の不安もあり、夏休みを満喫できなかった人もいたことと思います。(少しは、自分をほめてあげることが出来たか?)
さて、今日から授業日81日間の長い2学期が始まります。特に学校行事は、「運動会」や「渚フェスティバル」、「修学旅行」や「宿泊学習」など、子供たちが楽しみにし

ている、思い出に残る大きな行事が続きます。また、部活動は早速、9月には地区秋季大会が行われますし、児童生徒会も10月に選挙で新役員が決まります。さあ、これからは5年生、8年生の出番です。するかしらないか迷った時は、挑戦することをお勧めします。ただ気掛かりはコロナの第8波の動向です。当面はこれまでどおり、かぜ症状が見られたら、できるだけ自宅での静養をお願いします。

特集「命」生きてるって当たり前? ~電池が切れるまで~

左下の詩は、神経芽細胞腫(しんけいがさいぼうしゅ)というガンにかかり、長い闘病生活の末、小学4校年生、11歳という短い生涯を終えた、宮越由貴奈さんが書いた、「電池が切れるまで」という詩集に収録されている「命」と題する詩です。由貴奈さんの電池は、この詩を書いた4か月後に切れてしまいました。人は生まれた時から、命という電池を使っています。電池の容量は人によって

違いますが、多くの人は80年以上の容量のある電池をもって生きることになります。でも、由貴奈さんは、そんなに生きることが叶わない運命の子でした。
最近、いじめ等により、自ら命を絶つ事例が後を絶ちません。いじめがどれくらい電池を消耗させるか想像ができません。でも、いじめ等によって、他人がその人の電池の寿命を勝手に短くすることは絶対許されたいことは確かです。また、寿命の残っている電池を、自ら切ることなんてありません。由貴奈さんのように、生きたくても生きられない子どもにとって、「いらぬ命なら私にください」といった心の叫び声が聞こえてきそうです。さらに、命が失われたとき、自分の周りの多くの人々が悲しんだり絶望したりすることを想像してみてください。命は何物にも代えがたい、唯一無二のものであることを、もう一度確認しましょう。平岩小中学校の皆さんには、電池が切れるその瞬間までしっかりと使い、人生を全うしてほしいと願っています。いじめによってつらい思いをする人や、人が困るのを見て喜ぶような人が一人もない学校をつくっていきましょう。(妙高市立新井中学校学校だより No.245より引用、一部改変)

命はとも大切な人間が生きたるための電池おれたで
でも電池はいつか切れる命もいつかはなくなる
電池はずっととどろかえらるけい
命はそう簡単にはとどろかえらるけい
何年も何年も月日がたててやると神様から与えらるるものぞ
命がなると人間は生きられぬ
命はなんかいらない命をむだにする人もまだたくさん命がつかえるのになんか見ると非心しくなる
命は休むことなく働いているのだから私は命が疲れたとさうまでせいっぱい生きよう

宮越 由貴奈 作 小四

出典：角川書店

特集「平和」「過去を変えることは出来ないが、未来は創ることができる。」

8月15日は77回目の太平洋戦争「終戦の日」でした。この戦争で、310万人もの日本人が亡くなり、中でも、8月6日の広島、9日の長崎への原爆投下で、21万人以上の方が命を失っています。日向市内でも当時、財光寺等にある海軍特攻隊基地が空襲を受けたり、平岩も沖縄県浦添から学童疎開を受け入れたりするなど、想像を絶する生活が続いたということです。【画像右】今日、私たちが平和で豊かな生活が送れているのも、多くの先人の犠牲の上にあることを決して忘れてはなりません。最後に、広島・平和記念式典での小学生代表「平和誓

い」を紹介します。「被爆者は私たちのために、平和な広島を創ってくれた。今度は私たちの番だ。被爆者の思いを多くの人に伝え、自分も周りの人も大切にし、互いに助け合える平和な未来を創るため、私たちは、行動することを誓う。」【画像左】(全文は裏面に掲載)

広島「平和の誓い」 正門の「疎開記念之碑」

9月の主な行事
1(木)~2(金)地区実力テスト【9年】・実力テスト【8年】・課題テスト【7年】 / 5(月)~走力調査 / 6(火)地区別集団下校 / 7(水)渚フェス役員打合せ【5~9年】 / 12(月)礼法学習【9年】 / 15(木)地区秋季大会激励会 / 22(木)福祉学習【7年】 / 24(土)・25(日)地区中体連秋季大会 / 26(月)生徒会役員選挙告示 / 26(月)~10/4(火)教育実習 / 30(金)実用英語検定

◆平岩小中ホームページ◆
<http://cms.miyazaki-c.ed.jp/1606/> から、学校だより等、学校の情報をご覧ください。
平岩小中 検索

二十歳で上京し、就職した26歳の長女が、横浜出身の彼氏さんと、コロナで延び延びになっていた(擬)結婚を、先日ようやく済ませることができました。披露宴はしないみたいですが、親としては、平凡でもいいので、仲睦まじく、幸せに暮らして欲しいです。(向江)

へい わ ちか
平和への誓い

あなたにとって、大切な人は誰ですか。

家族、友だち、先生。

私たちには、大切な人がたくさんいます。

大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。

そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

道に転がる死体。

死体で埋め尽くされた川。

「水をくれ。」「水をください。」という声。

大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。

今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。

戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。

本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解

しようとすることです。

本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。

しかし、未来は創ることができます。

悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。

被爆者の声を聞き、思いを想像すること。

その思いをたくさんの人に伝えること。

そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。

世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

令和4年（2022年）8月6日

こども代表

広島市立幟町小学校

6年

バルバラ・アレックス

広島市立中島小学校

6年

山崎 鈴